

皆様おはようございます。11月も最終の週になりました。今日からアドベント・待降節です。今日が1週目・そして来週は2週・そして3週・そして4週目、その時は主の御降誕をお祝いするクリスマスの礼拝です。

季節は冬に向かい、寒さは増しますが、町にはクリスマスの明かりが灯ります。今年もコロナ、コロナで大変でしたけれども、慰めと癒しの光が灯るようになります。光が灯り、世界中の人たちが祝うのはイエスキリストの御誕生です。神の一人子が、主権者なる方が、力ある方が、平和の君が、素晴らしい助言者として、素晴らしいカウンセラーとして(イザヤ書9章6節)私たち人生に寄り添い共に歩いてくださる二人三脚で歩くためにお越しくくださったこの出来事は素晴らしい永遠に喜ぶべき出来事です。

神様のこの大きな賜物プレゼントを待ち望み、心から喜んで心の準備をさせていただき、待ち望みながらクリスマスの日に向けて礼拝を捧げていきたいと、そのように願っております。

今日は祭司ザカリアの出来事、その聖書が開かれております。妻エリザベトも、祭司のアロンの家の娘の一人でした。6 「二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」と書いてあります。これは素晴らしいことです。祭司として、また祭司を支える妻として、助け合い、「神様の前に」いつも彼らは神様を目の前に置いて生きていました。目には見えませんが生ける神様をの前に、正しく生きるんだと気をつけ合って助け合って生きていました。それは具体的には「主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」とありますように、そこに言い表されているわけです。主の掟と定め、聖書の語る律法の命令を全て守り、非の打ちどころがなかったと、ここまで認めてもらえる人というのはなかなかいないのではないのでしょうか。必ずどこかのお言いつけに反してしまう者ではないのでしょうか。非の打ちどころがない完全な人として数えられているこの二人、これはすごい存在です。

それなのに、7節にはしかし(ところが)という言葉があります。エリザベトは不妊の女性でした。そして彼らには子供がなく、2人ともすでに歳をとっていました。13節に「あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。」とありますから、この2人は長い間その願い。子を産むことに対して祈りを捧げていたに違いありません。長い長い祈りがありました。でもエリザベトは子を宿すことができない女性でした。主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。しかし、すべて彼らの夫婦の思いの通りになるわけではなかったのです。25節にありますように、「主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と、祝福を求めて祈り続け、挫折した祈りがありました。あき

らめて、とうの昔に忘れ去られていた祈りがありました。そこにあの夫婦の悩みがありました。心の痛みがありました。主は聞いてくださらなかったとの痛みがありました。あるいは、そうであるがゆえに、そういう切なる祈りがあったがゆえに、なおのこと非の打ち所なく、掟と定めをすべて守ろうとしたのかもしれませんが、その祈りはかなえられませんでした。

その祈りを聞き入れられるために専心神様の前に向かっていたこの二人。正しくあろうと願っていたのに。専心務めたのに。認められる行いをしたのに、なぜ。私たちの人生の中にも「しかし」という出来事があるのではないのでしょうか。「どうして?」と言うようなところがあるのではないのでしょうか。

神の前に正しく、そして次の命じられるところ守り、礼拝を守り奉仕を捧げ、富と祈りをささげ、祈り続けてきた、非の打ちどころのない生活を送っていても、なお叶えられないことがある。そういうことが私たちの心を苦しめ、心の傷になっているという、長い長い祈り。そういう祈り願いがあるかもしれません。しかし神様のご計画が着々と進んでいるということが今日の聖書の箇所からは分かります。

祭司ザカリアの組が当番で神の御前で香をたくことになりました。今日の聖書箇所「神の御前で」という言葉がキーワードになっているように思います。

6 二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。

8 さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、

15 彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、

19 天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。

人は神の前に生きる存在です。生きていらっしゃる神様はいつも私たちの前におられ、私たちはその神様を常に意識して主の御前で生きるという信仰を持ち続けていきたいと思えます。神様は私たちを見捨てず、いつも私たちの前におられます。赦しと恵みに満ちておられます。ですから私たちも神様の前に立つのです。

神様は諦められていたかつての願い、私たちが諦め、忘れられた祈り、当人がとうの昔に諦めて忘れていたその祈りを叶えてくださる方です。「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。」(コヘレト 伝道の書 3:11) そういうお方です。主にはその最善の時がおありなので

す。

神様は生きておられます。人生には「しかし」があります。熱い、乗り越えられない壁があり、挫折があります。痛みがあります。しかし、アブラハムにイサクを与えた神様を思い起こしましょう。紅海を二つに分けて乾いた道をつくり、天からマナを降らせて荒れ野の40年を導かれた方を思い起こしましょう。神様は、ご自身のタイミングで、神様の時に、どんなに私たちが挫折した、諦めていた願いであっても、絶望した祈りであっても、神様の方法と時によって御業をなさるといふこと、そのことが今日の聖書に書いてあります。

主の天使が聖所に現れる。主の神殿であれば、そういう事もひょっとしたら起こるのかもしれませんが、かつての組の当番の人から聞けば、誰からもそんな話はなかったでしょう。天使が香壇で現れる、このような事は起こり得ないはずのことでした。神の前に生き、神を意識して生きていたはずのザカリヤでしたが、12節「ザカリヤはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。」とあります。ああ、そういうこともあるんだなあと思います。非の打ちどころがなかった正しい人だと言っても、人間は弱い部分があるのだなあ。それではましてや私のことを思えば、どうであろうか。しかし、どうして正しく非の打ちどころがないと紹介されている人が、このように主の前に失態を犯して言葉を発することができなくなるほどのことになってしまうのかというのは常に私たちが疑問に思うことですけれども、人の弱さがあるということが聖書には記してあります。

想定外のことが起こり、不安になり、恐怖の念に打ちひしがれ、ガタガタと震えるような、それが弱い私たちです。たとえ非の打ち所がない、神の前に正しく掟と定めを守っていたとしても、予想外のことが起こると対応できず恐怖に駆られる。それが私たち人間の等身大の姿であるということが聖書には記してあります。

13 天使は言った。「恐れることはない。ザカリヤ、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。

1:14 その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。

ここで私たちが教訓を得るその事は恐怖に駆られるな、主を畏れ、畏敬の念を持って主を畏れかしこみ、そして恐怖を捨てなさい、神様の時はやってくる。神様はお忘れにならない、神様は喜びと楽しみを私たちに備えて下さる。私たちの願いは私たちのタイミングの中で聞き入れられなくても、主は私たちのことを忘れておられない。見捨ててはおられない。主は私たちのことを分かってくださり、本当に必要な時に必要なものを与えてくださる。常に

主の御手の中にあるので私たちは取り乱しており不安になったり恐れたり恐怖の中に陥ったままでいる事は無い。どんなに私たちが理解できないような突飛なことが起こったとしても、神様の御手の中にあるのだから、取り乱さずに、あきらめずに、主の真実を信じて、ただ神を畏れよ、状況に飲み込まれ、恐れ恐怖に飲み込まれずに、主を畏れ進み、「あなたの願いは聞き入れられた」との言葉を励みに信じて祈り続け、喜ばしい気持ちでゆだねて進むべきことを教えられます。

14 節 その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。

15 彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、

16 イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。

17 彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」

準備のできた民を用意するとは、主イエスキリストを迎えるための準備をすると言う事ですね。心の過ち、至らなさをつくづく知らされ、懺悔と悔い改めがあり、そしてそこに救い主として来てくださった方を受け入れる喜びと感謝がある。この救いのための準備、これが大切ですが、その尊い主イエス様に先立つ使命を担い、子供は進んでいくのだと言うことが預言されました。

18 そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」

私たちは神様の縦横無尽のお働きを受け入れるよりは自分の頭の理解を優先させようとする弱さがあります。真面目であればあるほど、常識的であればあるほどその危険性を持っていると言えるかもしれません。こんなに待ったのになんで今さらなんですか。どうしてこんなに遅れたんですか、本当に今更そんなことが起こるんですか。何によってそんなことが今更起こるということが分かるのですか、今更信じられるのですか。私を説得して分かるように教えてください。…神の前に正しい人で非の打ちどころがない人であっても、このように自らの不安や恐怖にさいなまれ、そしてそんなこと考えられないと言う思いに駆られて神様の言葉を信じることができずに、神様を自分の土俵まで引き下げようとする、そういう弱さを人間は持っています。

しかし、天使はどのように答えるのでしょうか。

19 節 天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。

1:20 あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」

天使は微塵も心揺るがされず、信じ切って語ります。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。」神様の素晴らしさ、力強さありありと私は知っています。私は神様の前にずっと立ってきました。そして信じています。だからあなたに遣わされて話しかけ、この喜ばしい知らせ(福音)を伝えるために遣わされたのであり、微塵も私は疑いの気持ちを持っていない。私は神の前に立っています。そしてあなたに話しかけています。この喜ばしい知らせを疑いなく、あなたに伝えるために遣わされ、私は自信を持って神様のお言葉はなると信じています。その言葉を託され、委ねられ、今私は神様の御前にあってあなたに遣わされて話しています。

「時が来れば実現するわたしの言葉を信じ」なさい。私に御言葉を託された主のそのお言葉、それは今私があなたに伝えるわたしの言葉となったが、そのわたしの言葉は時が来れば必ず実現することを私は強く信じている。

しかしあなたはそのわたしの言葉を信じなかった。あなたは自分の考えだけにとらわれ、不安や恐怖に捕らわれて神様の言葉と遣わされた私の言葉を受け入れなかった。しかし、その恐れを捨て、信じられないという心を捨て、何で今更、という疑問をもすべて捨てて、神への畏れて、黙して見ていなさい。

「あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。」信仰のゆえに口をつぐんで黙して神の御業を見なさい。そしてそれが起こってからあなたはその時に神様のすばらしさを語りなさい。神様のお約束は必ずなる。あなたは黙して、時が来れば実現する私の言葉を日に日に見ていなさい。あなたはもはや何も語る必要はない。神様のなさる業をただ黙して見ていなさい。

天使ガブリエルはまさに信じきっていました。時が来れば実現する私の言葉なんだ神様が遣わして私に語らせたんだあればこの私の言葉は絶対に必ず時を得て実現すると私は信じきっていますと、彼は信じ切って私の言葉の通りになることを見なさいと、断言して語りました。この天使ガブリエルの信仰から、この待降節第1週は学びと励ましを頂くのです。

黙して見ていなさい。このことは起こるし、そうなったらあなたは話すことができるようになるでしょう。その時には、新しい口で新しい心で、揺るがぬ心で神様を信じるようになったその新しい心と口であなたが神様をほめたたえるその時まであなたはもう話さなくても良い。不安も恐怖も何も話さなくても良い。時が来れば実現する私の言葉をあなたはただ心に留めて過ごしなさい。もう不信仰により過ちを犯すことはない。黙して祈り、ただ主のなさることを

見ていなさい。私は神の前に立つ者、神様を信じきっています。このガブリエルの信仰の言葉からこのアドベントの時、主を信じて待ち望むことを教えられます。

ザカリアは聖所から出ましたが、何も物を言えませんでした。中で何かが起こったのだと皆思いました。

その後妻エリザベトは身ごもって身を隠していました。妊娠が誤りであれば大変と思ったのかもしれませんが。大事をとって見守りました。そして5ヶ月経ってこれは本当にそうなんだと知って彼女は姿を現しました。

25 節 25 「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」

そこには長い苦しみと痛みがありましたが、時が来て実現する神様の導きの中で、実にイエス様を証しする洗礼者ヨハネの父つまり母となるその大きな栄養のために神様はその格別のタイミングが来るまで、「神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」その二人を見出され、その祈りを叶えることをその時まで控えておられたのです。

すべてのことに時があり、神様は時にかなって美しい事をなさるお方なんだなあとと思います。そしてその神様のご真実を私たちも信じていきたいと思うのです。

神の御前に生きる時、恐れる事は無い。恐れを委ね、主を畏れよ。「あなたの願いは聞き入れられた」。

神を畏れ時が来れば実現するその主のみ旨を信じなさい。そして私が語ることを信じなさい。私は信じきっていますこの喜ばしい知らせを伝えているのですと、私たちもそのような信じ切った、主の遣わし人でありたいのです。喜ばしい知らせを額面通り信じてみませんか。そしてこの喜ばしい知らせ、福音はイエスキリストにあって完全に成就しました。私たちに素晴らしい知らせが語られています。価値ある知らせと信じています。私たちもこの福音を担って、喜び信じて、主のご計画の中を進ませてもらいたいと願います。